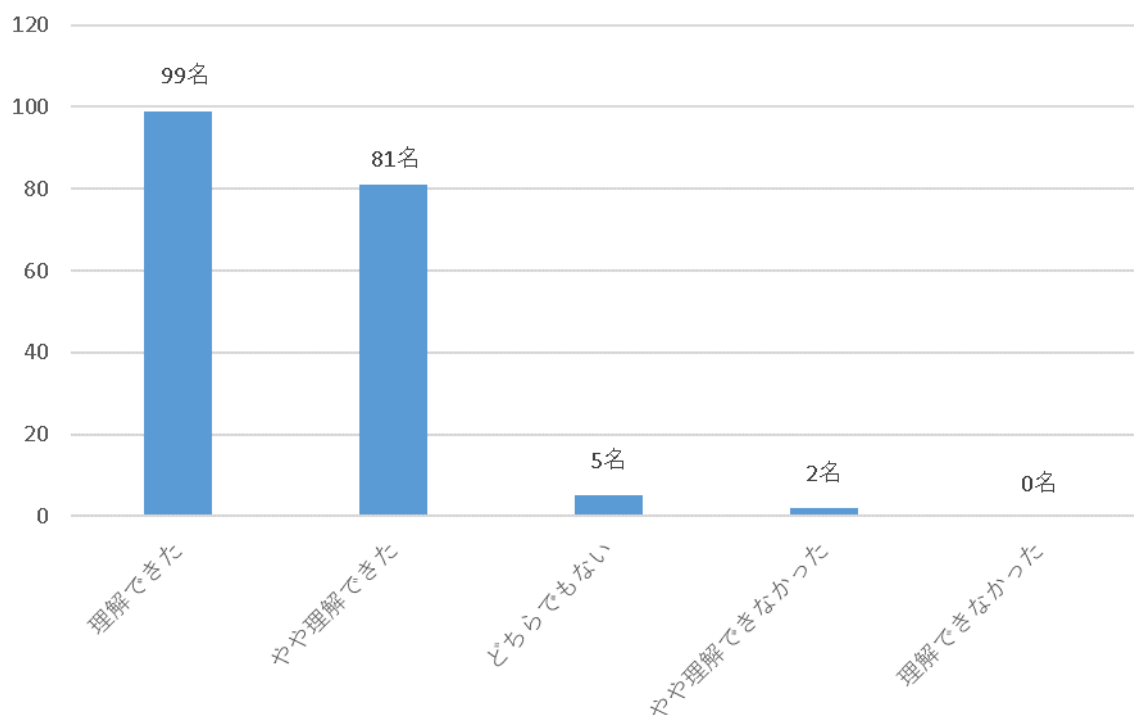


## 2024 年度 愛臨技生物化学分析検査研究班 12 月講演会レポート

アンケート集計結果

作成日：2024 年 1 月 15 日

### アンケート)『血中薬物動態』の講義に対する理解度



薬物検査に携わる方、そうでない方、多くの方に受講いただきました。

今回の講演は比較的難しい内容でしたが、レポート提出 187 名のうち 9 割以上の方に「理解できた」、または「やや理解できた」とご回答いただきました。

### ご意見・ご感想など (一例)

たくさんの貴重なご意見・ご感想ありがとうございました。

- ・なんとなく測定していた血中薬物への理解が深まりました。分かりやすかったです。
- ・ただ測定する、結果を返すのではなく、きちんと薬物濃度検査の意味を理解した上で検査に関わりたいと思います。
- ・学生時代の勉強ではよく理解出来なかった内容であったが、社会人になり AST 活動や微

生物検査に携わり、薬剤に関する知識が増えた現在ではとても勉強になる内容であった。他の微生物検査担当者にも試聴を勧めたいと感じた。

・仕事上だけでなく、自分の生活においても知っておきたい内容でとても勉強になりました。

### 本講演会のどのような点が特に役に立ちましたか（一例）

今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り一部ご回答させていただきます。

・今回の講演で TDM への苦手意識の解消に繋がりました。大変勉強になりました。ありがとうございました。厚かましい要望ではありますが今回の講演の資料をいただくことは可能でしょうか？大変分かりやすくまとめてありましたので今後の教育、復習のために活用させていただけたらと思います。また、検査結果の解釈、報告の重要性を改めて考え直す良い機会となりました。

➤受講いただきありがとうございました。多くの方に勉強になったとお声をいただき、主催者一同大変嬉しく思います。さて、資料の配布・ダウンロードについてですが、申し訳ありませんが著作権などの関係上お断りさせていただいております。ですが、皆様が画面の前で取ったメモや記憶した内容に関しては制限がありません。今回の講義に限らず、勉強した内容は是非とも職場の同僚や若手の方に教えてあげてください。

・なかなか薬物に関して学ぶ機会が少なかったため、今回の講演で基礎から学ぶことができ非常に勉強になりました。

・自施設で院内測定していない薬剤に関して勉強する機会がなかったため良いきっかけとなった

➤ご感想ありがとうございました。薬物検査は外部に委託している施設も多く、受注している施設に関しても血中薬物濃度を中心に勉強する機会は少ないかと思います。私自身も大変勉強になりました。検査技師であれば知っていて損をしない内容かと思しますので、今回の講義内容を薬物検査する人・しない人に関わらず多くの人に伝えていただき、日々の業務に役立てていただけたら幸いに思います。また、今後も基礎的な内容から、一部の人しか関わらない限定的な内容まで、幅広く発信していけるよう努めて参りますのでよろしく願いいたします。

## 設問と回答

設問 1) 経口投与後の薬剤が初回通過効果を受ける場所はどこか

- ・胃
- ・肝臓 **正解**
- ・小腸
- ・大腸

設問 2) 薬物の血中濃度の上昇が最も速い投与方法はどれか

- ・経口投与
- ・筋肉注射による投与
- ・静脈注射による投与 **正解**
- ・舌下投与

設問 3) 高齢者の薬物動態の特徴で正しいのはどれか

- ・薬物の吸収促進
- ・薬物の代謝促進
- ・薬物の排泄の増加
- ・血中薬物濃度の半減期の延長 **正解**

設問 4) TDMの対象として設定される薬物の定義として正しいものはどれか

- ・薬物アレルギーを起こしやすい
- ・有効濃度域が広い
- ・薬物血中濃度と薬理効果が相関する **正解**
- ・至適投与量の個人差が小さい

設問 5) バンコマイシンのTDMを行う際に推奨される採血のタイミングはどれか

- ・トラフ値のみ
- ・ピーク値のみ
- ・トラフ値とピーク値の2点 **正解**
- ・トラフ値と内服後1, 2, 3, 4時間後の計5点

設問 6) 併用することでカルシニューリン阻害薬の血中濃度を上昇させる薬物はどれか。すべて選べ

- ・ポリコナゾール **正解**

- ・カルバマゼピン
- ・オメプラゾール **正解**
- ・フェノバルビタール

## <まとめ>

2024年度12月講演会もWeb配信にて、県外会員様も生涯教育付与対象とし実施させていただきました。事前申込322名に対して187名の方がレポート提出してくださいました。多くの方にご参加・ご視聴いただきありがとうございました。

今回は『血中薬物動態』をテーマに、基礎的な薬物動態からTDMの対象となる薬物についてお話させていただきました。今までの各臓器や疾患をテーマにした講義と比べ、見る人を選ぶ内容だったと思うのですが、薬物検査を実施している施設以外の方からの参加も多く、皆様の勉強に対する関心の高さを実感いたしました。

勉強とは本来楽しいものです。日常の疑問を解決するのはもちろん、その知識を使って私たちは誰かに還元することができます。今回の講義も知識としてはささやかなものだったかもしれませんが、皆様の意欲が、好奇心が、明日の誰かの支えになれたなら、班員一同大変嬉しく思います。

今後も生物化学分析検査研究班はより良い情報を提供できるよう精進して参りますので、よろしく願いいたします。

以上

**作成・回答編集・問い合わせ：生物化学分析検査研究班**

(一社)半田市医師会健康管理センター 臨床検査事業部 臨床化学課  
竹内実菜美

TEL：0569-27-7882

E-mail：c3175\_takeuchi@handa-med.jp